

野口 颯汰

芝浦工業大学大学院

【作品名】

田園風景(=四季)と共に暮らす

Design statement



日本の田園風景の魅力は、四季がもたらす自然環境の調和により創出される。雪が溶け、川上から水が流れ、小さな苗の列が黄金色の風景へと染まっていく。四季と田園風景の変化は表裏一体の関係であり、この関係性に魅力を感じる。しかし、一つの季節の過酷さから導き出される住居形式は、魅力的な風景(=四季)との関係を剥離させる。田園風景がその姿を変えていくように、四季の変化と共に自然環境に呼応する住居の在り方をめざした。

寄り添う二つのボリューム

敷地の北側には、水回りや主寝室、雪室や機械室などの機能的な諸室群を壁式で集約する。水田の広がる南側には、リビング・ダイニング・キッチンなどの家族の団樂の場となる諸室を大きな一室空間として配置する。一室空間の周囲には、「広縁」と新潟県の伝統的な建築形式である「雁木空間」を設け、同心円状の重層的な空間構成とする。

重層的な空間構成

南側は、日本の民家形態にみられるような柱と建具による構成とし、周囲の風景への透明度を保ちながら、広縁の空気膜による断熱を行う。広縁と雁木空間が四季の変化に合わせた環境的な質の調節を可能とする。屋根面からは太陽光を反射させながら取り入れ、雁木空間により暗くならがちな内部空間をぼんやりと照らす。

開放的に屋根を支える

一室空間の開放感を保ったまま大きな屋根を支える。45×180@455mmの登り梁により屋根面を形成し、急勾配にすることでスラストを発生させ屋根荷重を外部空間である雁木側の柱へと伝えていく。荷重は軒先の斜材から同心円状の空間を構成する構造体へと伝え処理する。大きな外部荷重は北側の壁式のボリュームで受ける。

空間のコントラスト

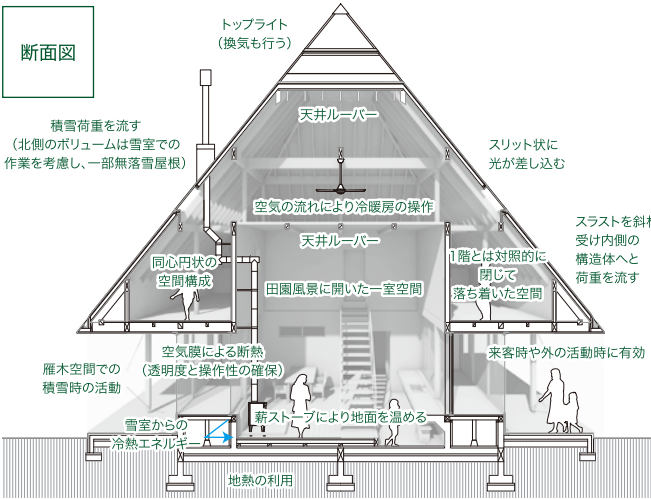
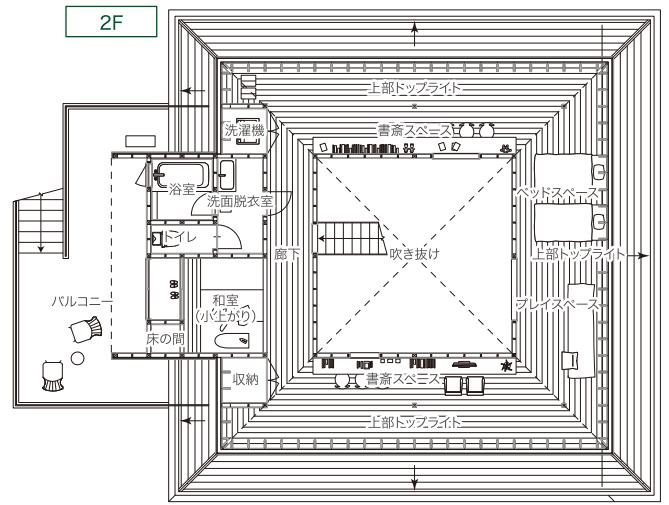
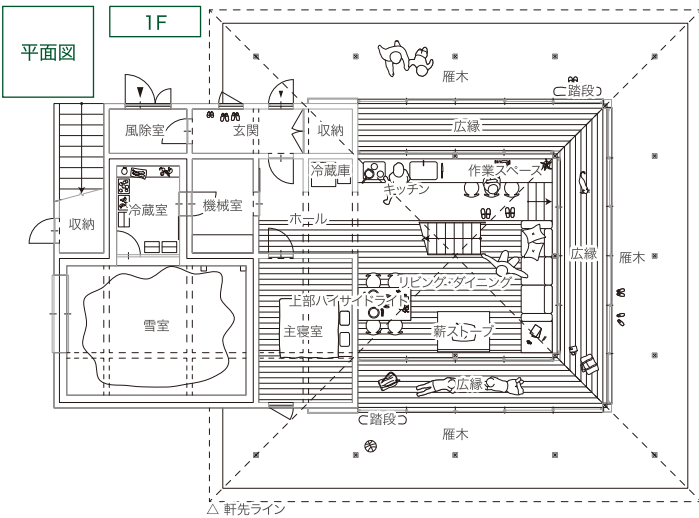
大きな小屋組が現しとなった2階には、書斎や子ども部屋などが同心円状に設けられている。田園風景に開いたLDKとは対照的に壁に囲われて落ち着いた空間である。広縁と2階の空間は基準線間を1365mmに設定しているため、大人にとっては読書やデスクワークに適した空間であり、子どもにとっては落ち着いて遊ぶには十分な広さの空間である。

積雪と空間の増幅

一室空間側の急勾配屋根は積雪荷重を回避し軒先に雪の壁を降り積もらせ、雁木空間と広縁との組み合わせにより、かまぐらのような独特な空間として利用できる。冬だけでなく、これらの空間は適度な気温の日には単純に活動の場としての体積を増幅させる。2つの空間のスラブ差は480mmにしているため、座るなどの行為により、広縁と外部での活動に関係性をつくる。

自然の豊かさを享受する暮らし

太陽光・地熱・薪ストーブの火・水田の通風・空気膜・雪室の冷熱など、自然的なエネルギーを用いながら、四季の変化に上手に対応していく。消費電力の削減をしながら、駐車場の屋根面では太陽光発電を行う。過発電の考えをもとに、持続的なエネルギーシステムを目指す。



周囲の風景が黄金色に染まる。大きな小屋下の空間で四季がもたらす田園風景の変化を眺めながら暮らす。

設計コンセプト

田園風景がその姿を変えていくように、四季の変化と共に自然環境に呼応する住居の在り方を目指した。敷地は新潟県十日町市、水田と隣り合い田園風景の広がる敷地を選定した。敷地の北側には、機能的な諸室群を壁式で集約し、風景の広がる南側には、家族の団樂の場となる諸室を大きな一室空間として配置する。周囲には、「広縁」と新潟県の伝統的な建築形式である「雁木空間」を設け、同心円状の重層的な空間構成とする。南側は、日本の民家形態にみられる柱と建具による構成とし、周囲への透明度を保ちながら、広縁の空気膜による断熱を行う。広縁と雁木空間が四季の変化に合わせた環境的な質の調節を可能とする。一室空間の開放感を保ったまま大きな屋根を支える。登り

梁により屋根面を形成し、スラストは外部空間である雁木側の柱へと伝え、軒先の斜材から同心円状の構造体に流し処理する。2階はLDKとは対照的に囲われて落ち着いた空間である。広縁と2階の空間は基準線間を1365mmに設定し、大人にとっては読書やデスクワークに適した空間であり、子どもにとっては落ち着いて遊ぶのに十分な広さである。急勾配屋根は積雪荷重を回避し軒先に雪の壁を降り積もらせ、冬季は雁木空間を独特な空間として利用できる。自然的なエネルギーを用いながら、四季の変化に上手に対応していく。持続的なエネルギーシステムを目指す。

審査委員講評

日本の風景には大屋根が似合います。雪国新潟の自然の中に計画された方形屋根の家です。雁木空間～広縁～LDKと同心円にレイヤー空間をつくり冬場の断熱性能と他の季節の開放感を両立させ、同時に内外の程よい距離感をつくり出しています。軒先の雪ずりのできるかまぐら空間も魅力的です。ボリュームが少々大きいかもしれませんが伝統的形態を見事に現代のサステナブル空間に昇華しています。